



茶筵儀則卷八

ヲ多
685
8



門 79
藏 635
卷 8



茶定儀則卷之八

仕込茶入茶各重の内大目立

但仕込茶入の茶各重と茶碗の内仕込を

隙中へ茶入茶碗の茶は湯を煮て

盆立の器をいり下り茶をいり茶入仕込

酒のたのま茶入茶を振舞い茶

茶碗の意をいりていり茶をいり茶碗

の如也

茶各重の浅き茶碗と茶内茶各重仕込を

その也 面葉碗ノ葉入仕進ノ一茶巾茶巻の
並初ノ事ハ如葉巻茶巾ノ用也

一初府の信也

一申立後水務定在ノ金大目録ノ一申ノ袋
入ノ葉入と葉巻ノ信也 信也ノ事ノ葉巻上
向ノ事ノ信也ノ事通ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

一勝中ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

信也ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事ノ事

一 正着茶をとりて右のしやうをいれぬくは中との茶に
柄敷きのけり茶碗のてらをいれ

徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

今一茶

一 右の茶をとりて右のしやうをいれぬくは中との茶に

一 徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

一 徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

一 徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

一 徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

水一盃入る茶をとりて右のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

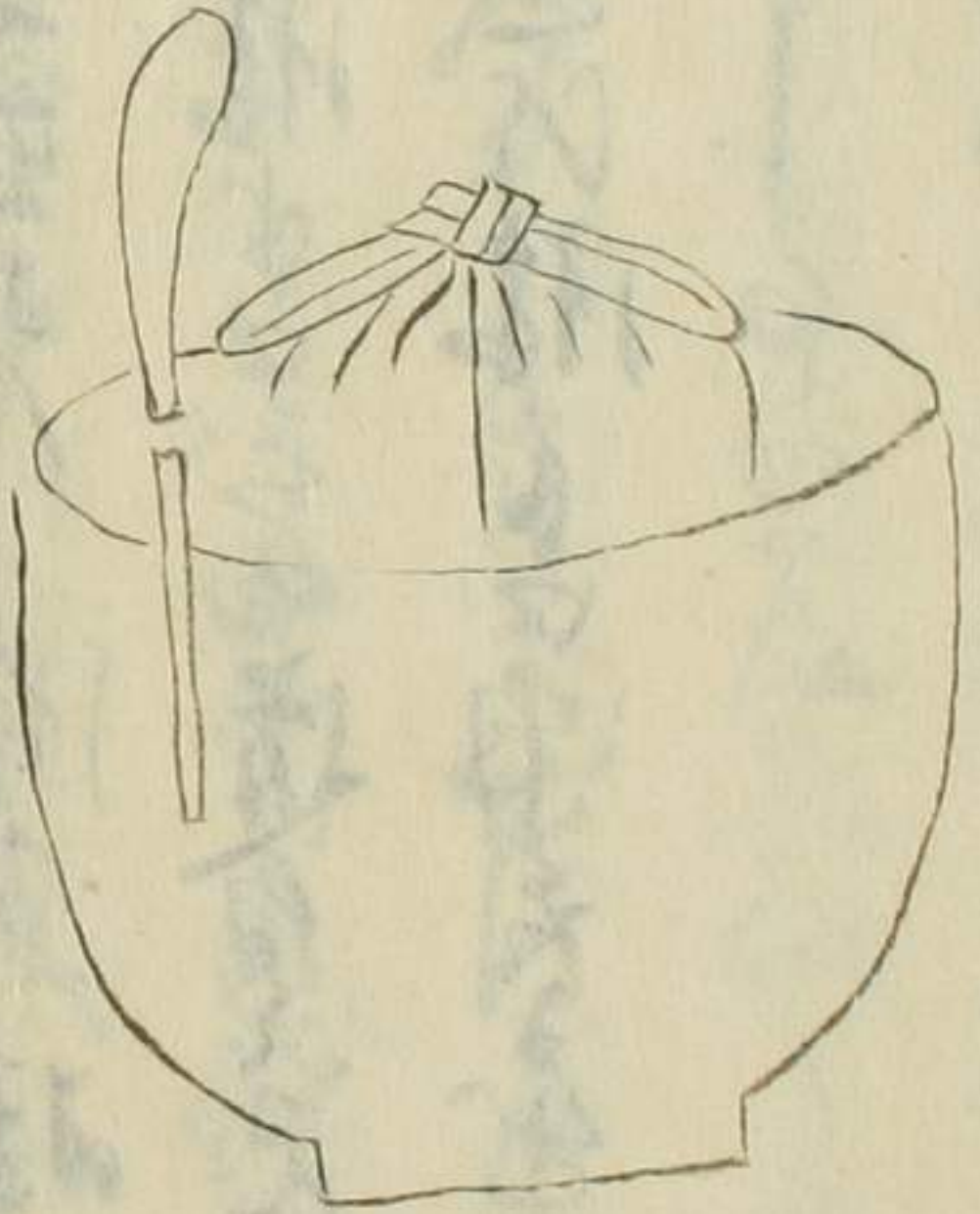
茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

茶巾のしやうをいれぬくは中との茶に

徳川のしやうをいれぬくは中との茶に

仕込茶入の圖



是ハ茶碗を茶入の搦子乃方ル重ク
圓ナリ見合とめて茶碗ナク重ク
重ク時出ク重ク

湯を茶入はせしむるに茶葉のほうをいれし

一 初度の湯の事

一 中庄後水揚定座の茶葉のほうを茶内に入れし

り茶を倍する目録の茶葉を茶入はせしむる茶

碗の事

後茶の茶入を茶碗の内は茶入の膳に

けり茶葉のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

由は茶葉のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

一 茶葉のほうをいれし

一 膳に茶葉のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし目録の茶葉を

茶入のほうをいれし

一 茶葉のほうをいれし目録の茶葉を

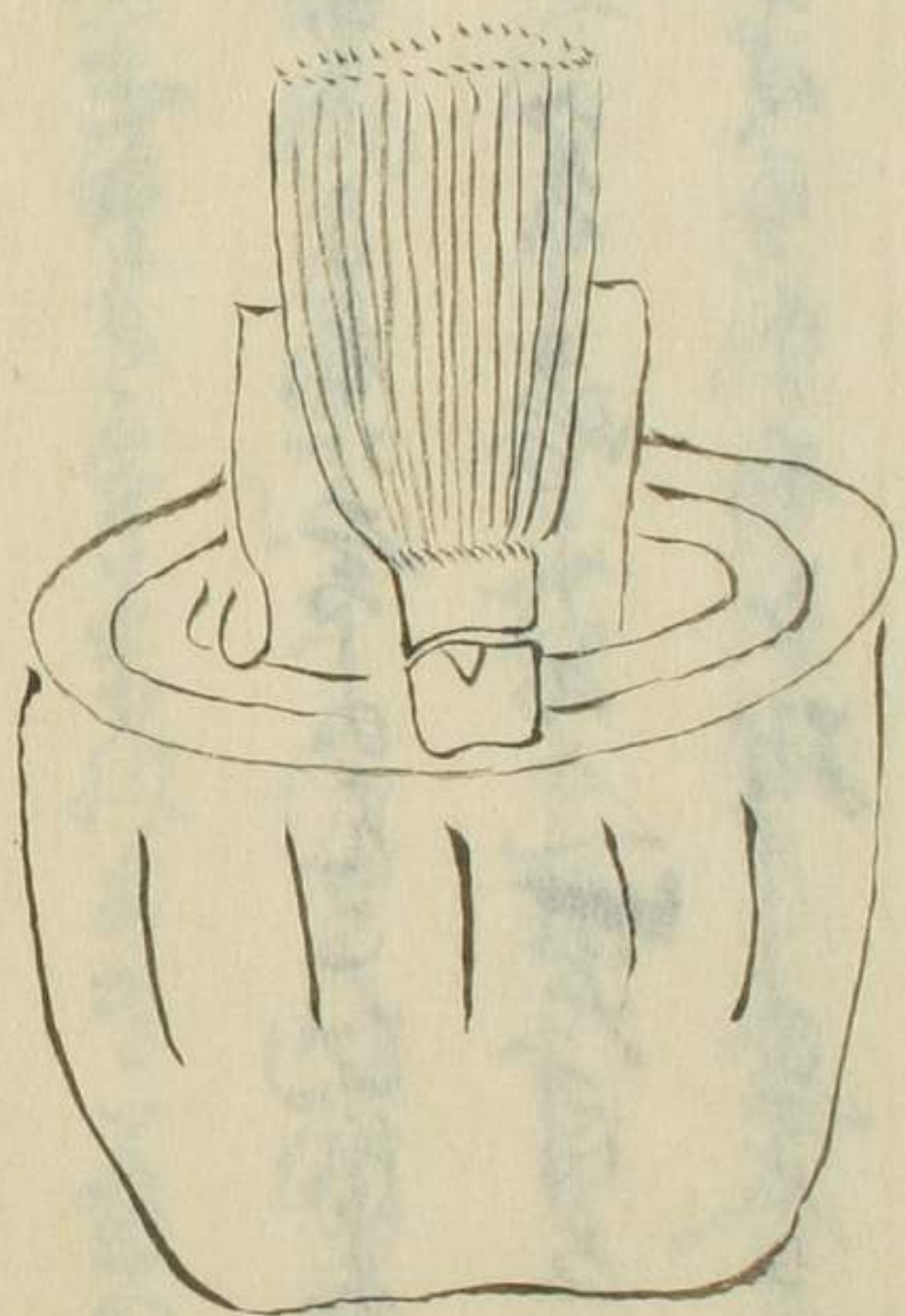
おのちも子孫をたつた通のちのちを右をよき合
心し業縁のちのちを右をよきめし心し
ゆききき方円と見て大目とて二年のちの
たしよ主業取ゆたゆきよ業入のちのちのち
業各をちよ業入の右をよき

世角物のよき入のちのちのちのちのちのち
ちのちのちのちのちのちのちのちのちのち
主業各をちししめ何業各をちしして大目
比右の端し扱柄端のちのちのちのちのち

市角をちし流たのちのちのちのちのちのち
主業各をちししめ何業各をちしして大目
比右の端し扱柄端のちのちのちのちのち

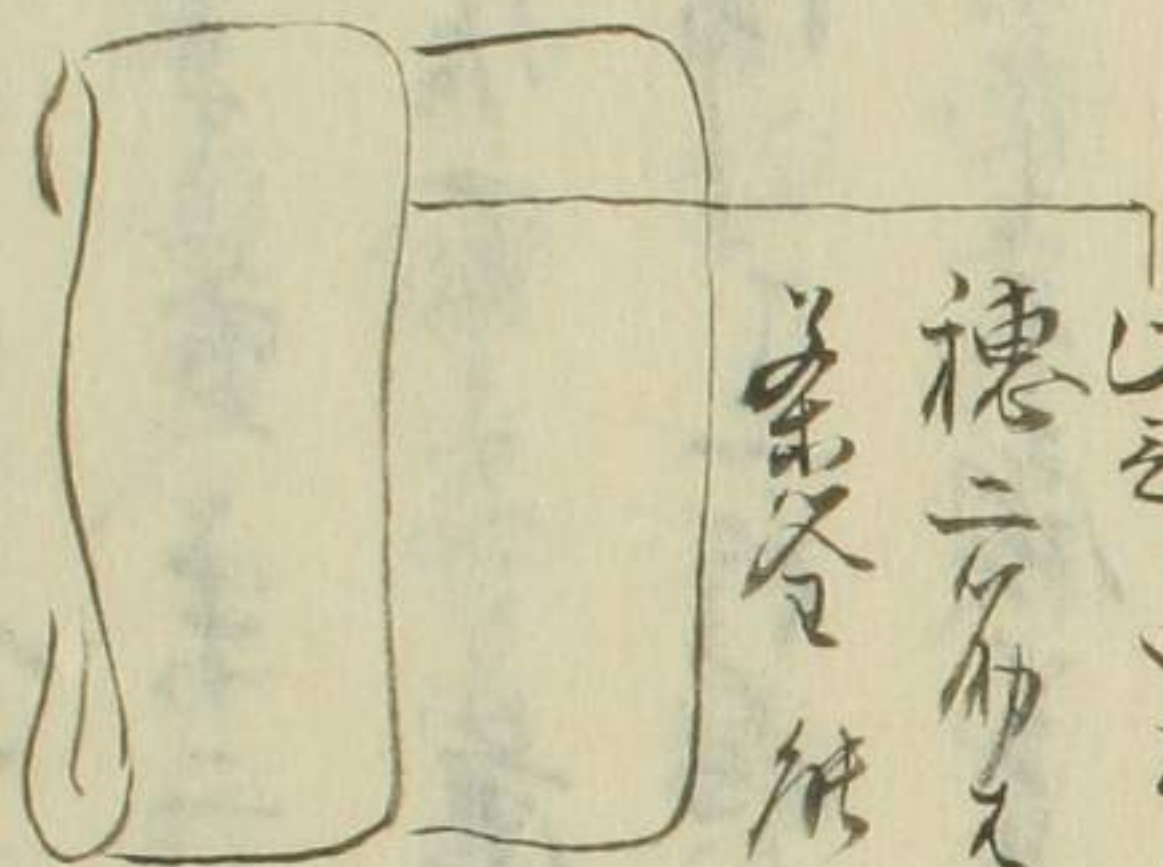
そのちのちのちのちのちのちのちのちのち
たしよのちのちのちのちのちのちのちのち
流たのちのちのちのちのちのちのちのち
何のちのちのちのちのちのちのちのちのち

茶筴用茶巾置き茶巾



茶巾の置き茶巾

はしり茶巾の置き茶巾
襷を飾る茶巾



聖門極大目多々の中通門分の右葉入の葉を
第とあらしととて第のぬり相をぬれた
並に直右より葉入を出入り常より葉入を出入り
第の内より葉入をぬれたの字の字を又ぬりて
第のやうにしてぬりて相と相隔てし如
初極上と直下とす
上と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極

又直右より葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極

一 葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
一 葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極
下と葉入のたより葉入の事出常初極上と極

一茶碗たまりし茶通の茶を茶入に注ぎ茶
碗の茶を茶袋の中へ入れ紙鉢に茶を
入れ茶入を茶碗の中に入れ茶入の茶を
茶碗の中に入れ茶碗の茶を茶袋の中へ
入れ茶袋の茶を茶碗の中に入れ茶碗
の茶を茶袋の中へ入れ茶袋の茶を
茶碗の中へ入れ茶碗の茶を茶袋の中
へ入れ茶袋の茶を茶碗の中へ入れ

一茶碗たまりし茶通の茶を茶入に注ぎ茶
碗の茶を茶袋の中へ入れ紙鉢に茶を
入れ茶入を茶碗の中に入れ茶入の茶を
茶碗の中に入れ茶碗の茶を茶袋の中へ
入れ茶袋の茶を茶碗の中に入れ茶碗
の茶を茶袋の中へ入れ茶袋の茶を
茶碗の中へ入れ茶碗の茶を茶袋の中
へ入れ茶袋の茶を茶碗の中へ入れ

茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

但極茶通茶は茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

一茶碗たまりし茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

但清茶通茶は茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

茶通

一茶碗たまりし茶通の茶を茶入に注ぎ茶碗の茶を茶袋の中へ入れ

上たて湯と市一は月通の中しちとるま
なき、茶巾をたて又水務のまの上まのま

一茶扱右のま茶入たる茶とすく波か城
て茶入正し時の一は茶袋のまをたて市

但まてし茶袋と茶入前まを所し
少くは(茶)かしよ

一茶常茶扱てし茶とこしほし茶扱茶入まを
ゆ時茶扱持たかぬまを出たは扱まのま
折貝えかぬまを茶入まに

但治ま初茶とまの茶常ま茶後ま茶ま

而し茶扱のまの但初治まの治ま
茶初まを茶一茶初茶扱ぬま茶

一茶まの茶如常茶ま

一茶茶茶茶茶茶の茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶
茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

但六村茶の茶茶茶茶茶茶

一茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶茶

ゆきつらうくしあひくし名をたしひ家の才を成り
たしひ月通の糸を染むをたしひたしひ名をたしひ
お前をひくしゆきつらうの糸をたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)糸をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

一石くし指のびし糸をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

湯ふくし糸をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

一糸をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

一湯をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

一石くし糸をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)は名をたしひたしひ(玉をたしひて
糸をたしひて)

茶領出常一とて好まざる由と云はれ又出持の蓋
上と右より茶扱をたまた茶扱と云ふ事と
すらひ入るる常一茶扱也一茶扱をた
ぬくはし茶扱の茶扱のき茶と立出はる
如常

世後の茶扱は茶と云ふ入生辨して残
一茶の茶扱は茶と云ふ一茶扱して立出は
り茶と傳

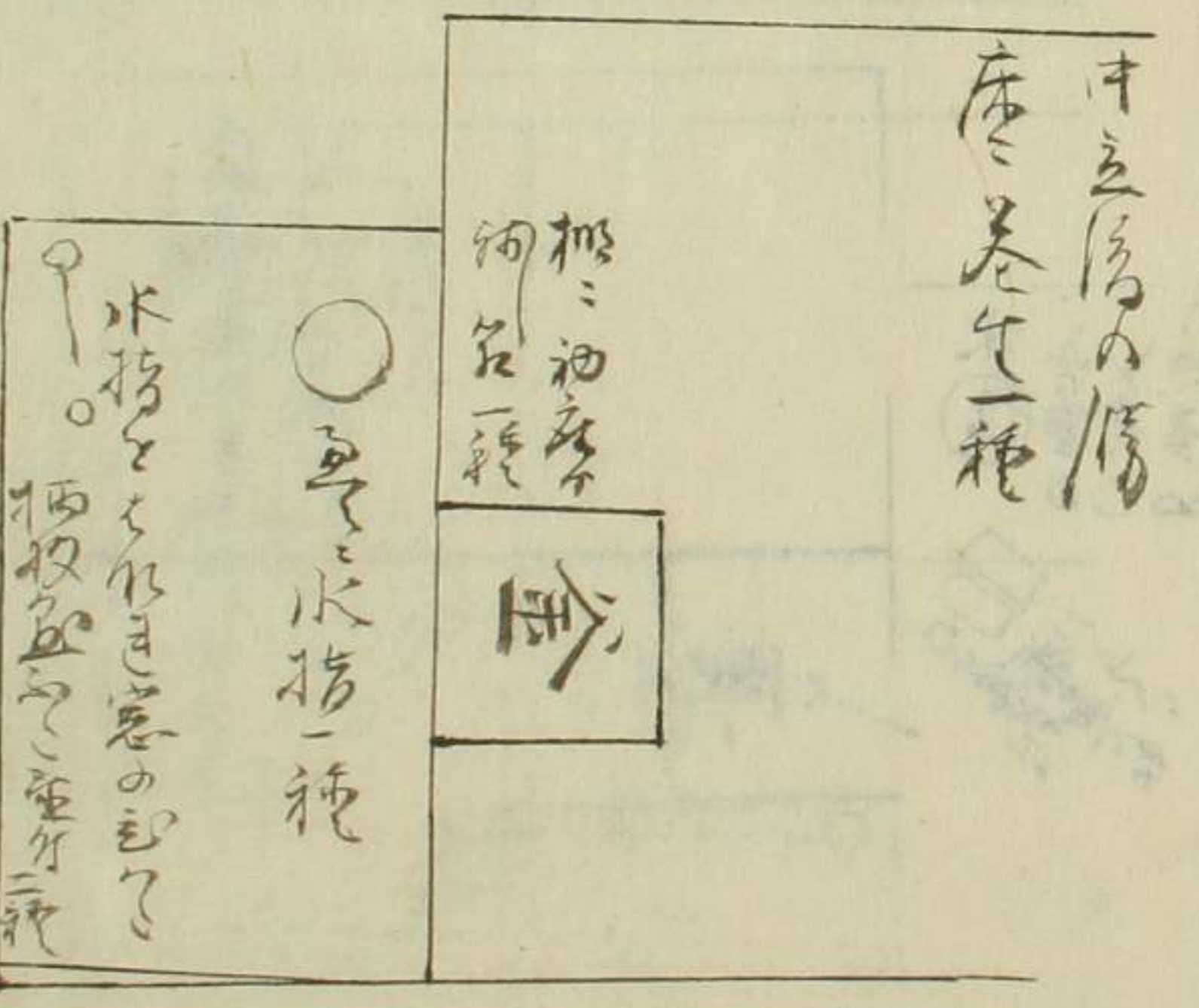
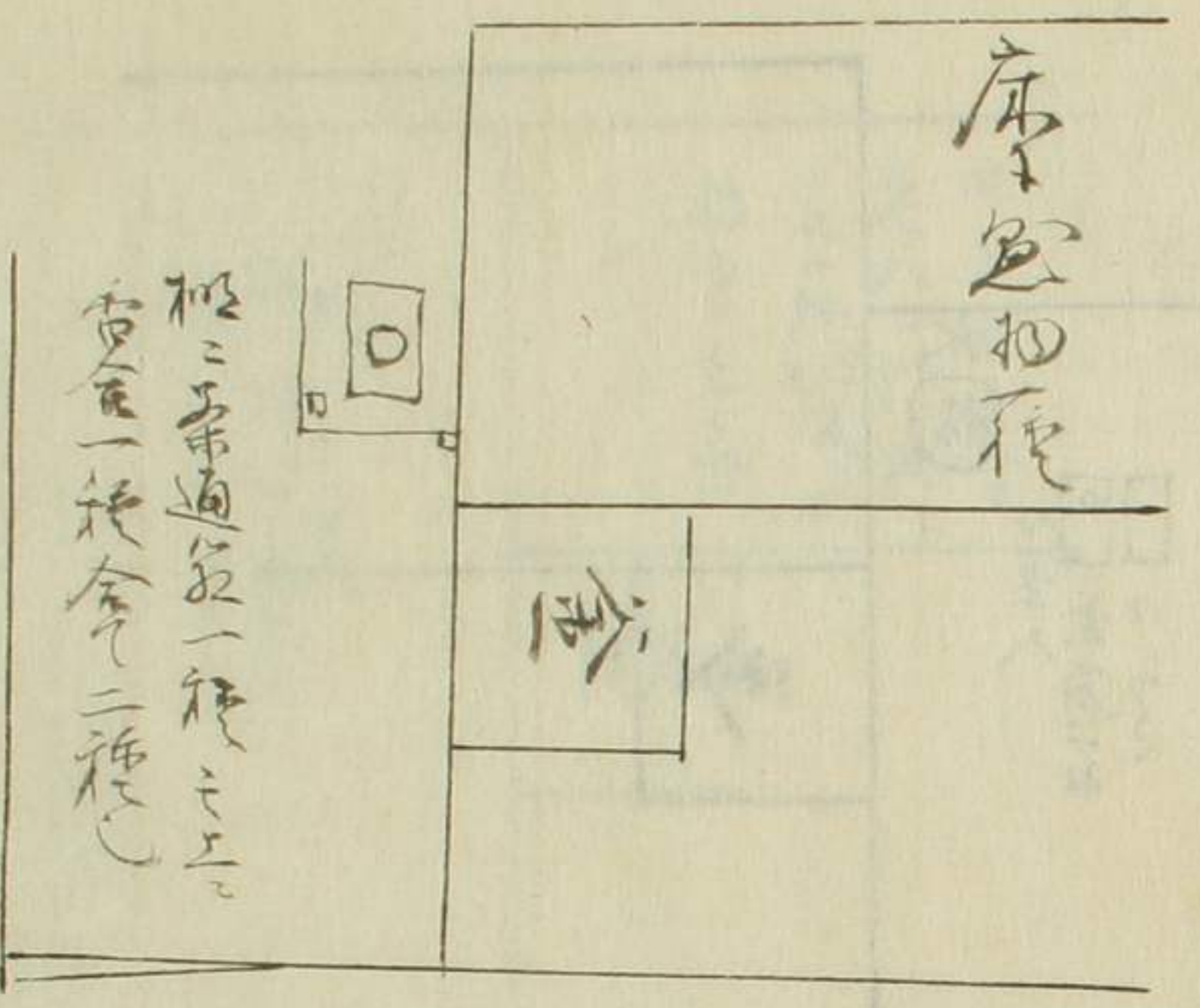
世後の茶扱は茶と云ふ入生辨して残
又茶と云ふ茶扱は茶と云ふ一茶扱して立出は
り茶と傳
茶扱は茶と云ふ一茶扱して立出は
り茶と傳
茶扱は茶と云ふ一茶扱して立出は
り茶と傳
茶扱は茶と云ふ一茶扱して立出は
り茶と傳

此茶通第^一二行^の平立^すて奥^の国^と
以^て方^の知^る一

一 二種^は平^も糸^の茶^通第^一二行^の平立^すて奥^の国^と
二 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
三 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
四 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
五 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
六 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
七 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
八 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
九 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
十 茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と

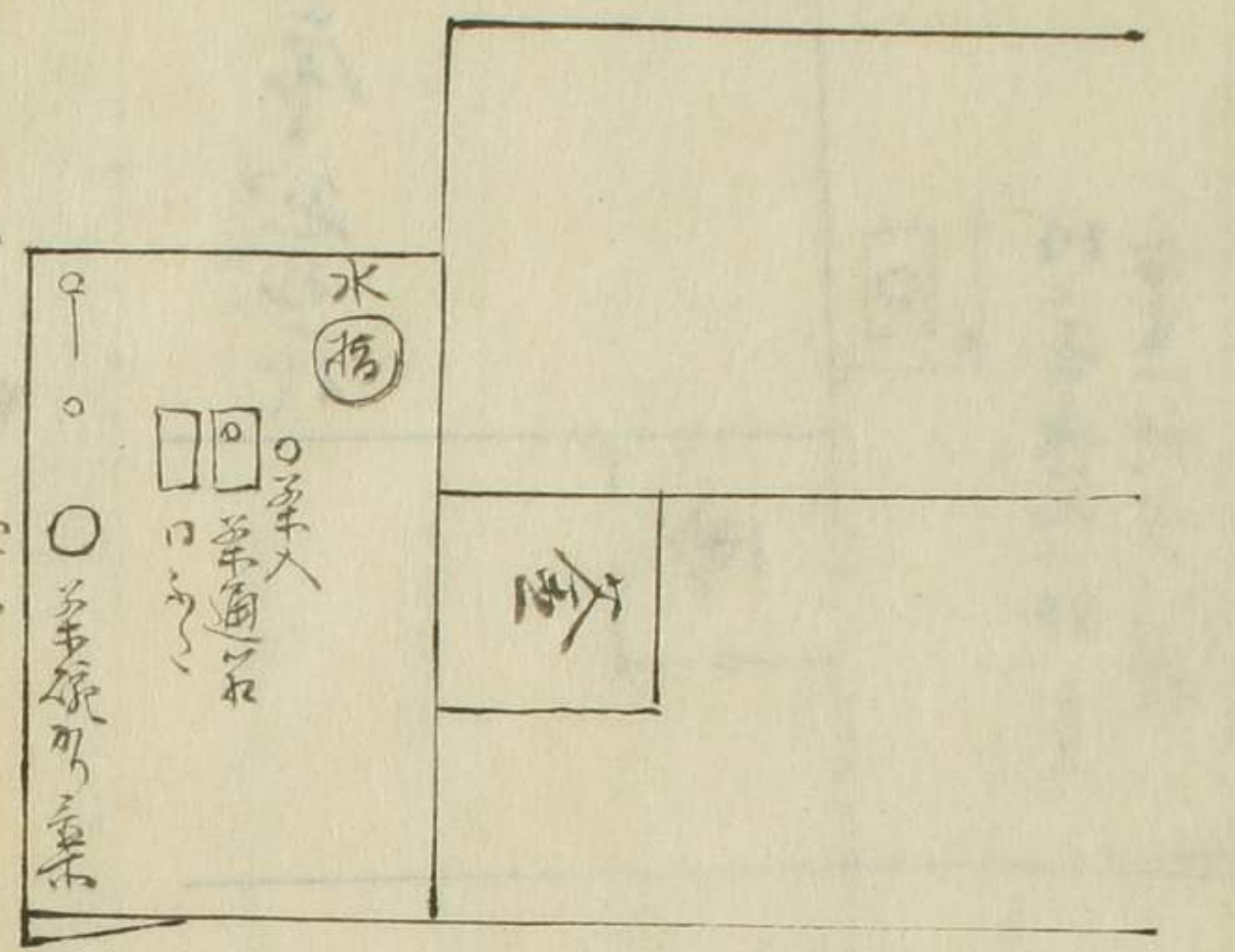
此^とも^も初^の二^種の^茶通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
入^れ右^の種^をも^も茶^の通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と
後^の一^種の^茶通^第一^二行^の平立^すて奥^の国^と

大同系通我初産月端此号

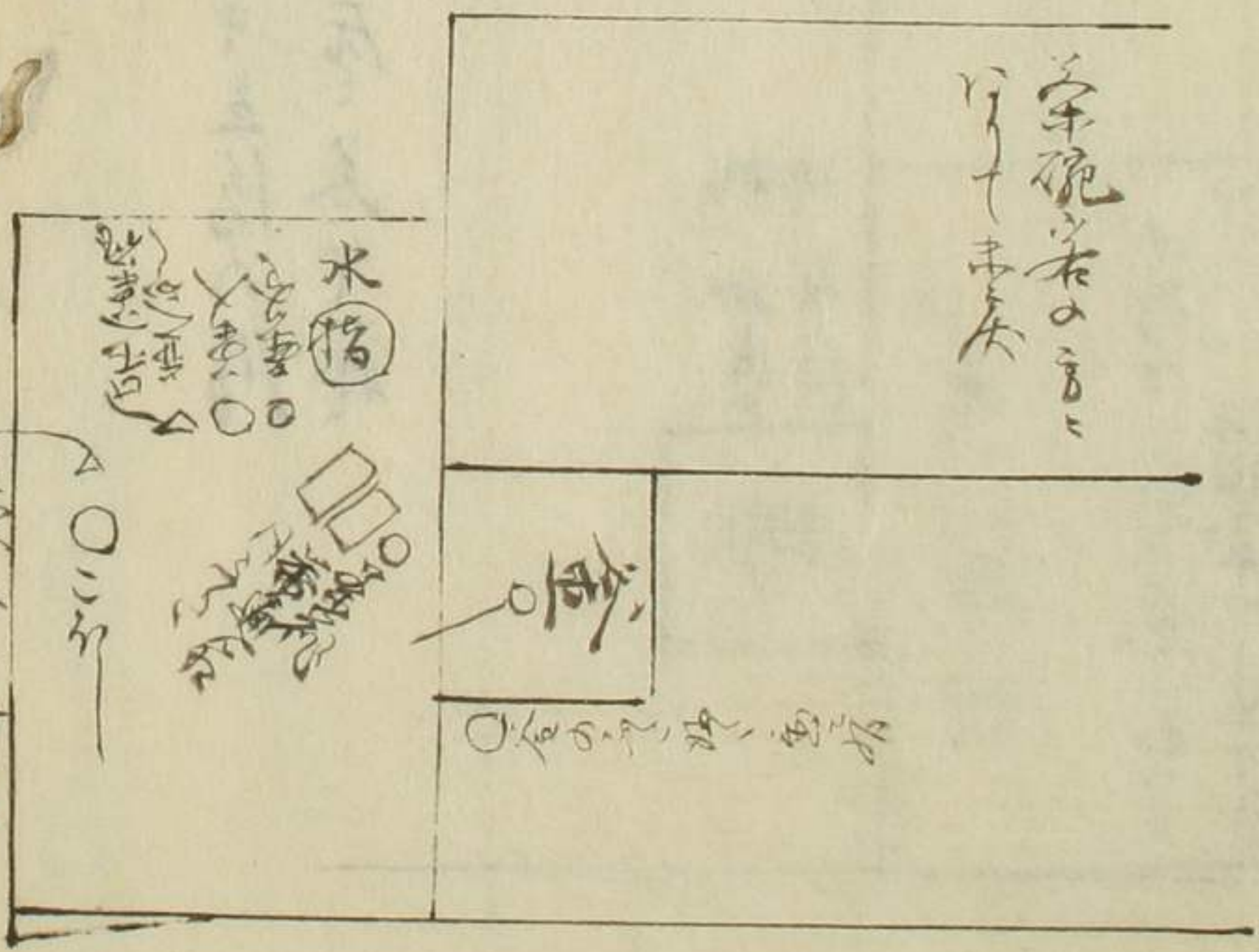


[Faint bleed-through text from the reverse side of the page, including characters like '大', '中', '水', '指', '二', '種']

茶通名初極の如く命同様の如く一り所

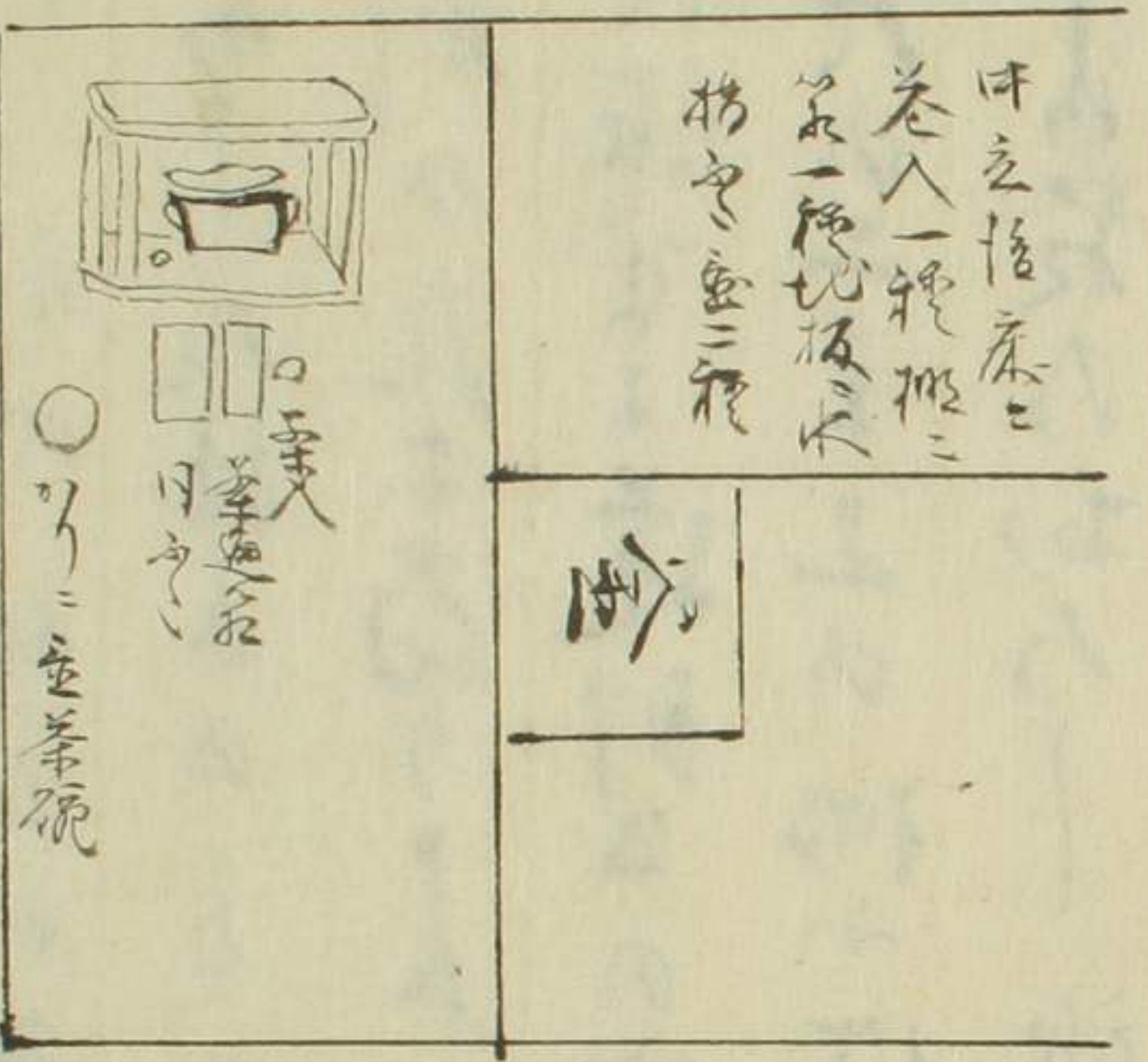


心もいふこととて茶室のやうに分る

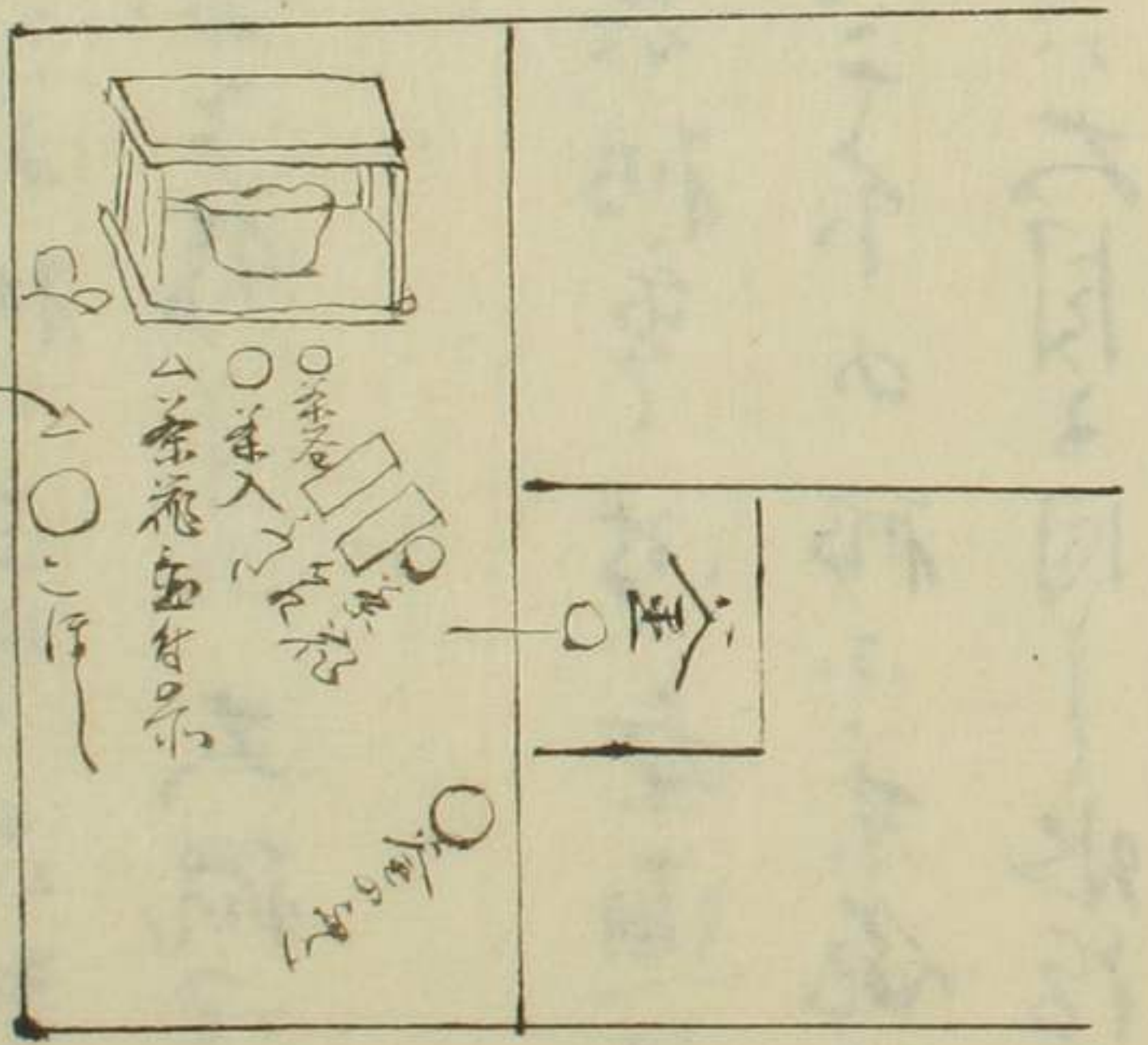


茶室のやうに分る

四角の茶室の茶通名初極の如く命同様の如く一り所



茶室のやうに分る



茶室のやうに分る

一 是ハ遠別公の口方 柳也 同角切柳分洞柳也
一 勝也 但角切柳分柳の正申ふおくれ
あり 最後よの方 妻と信りしん 大概は川
割のたふありしん

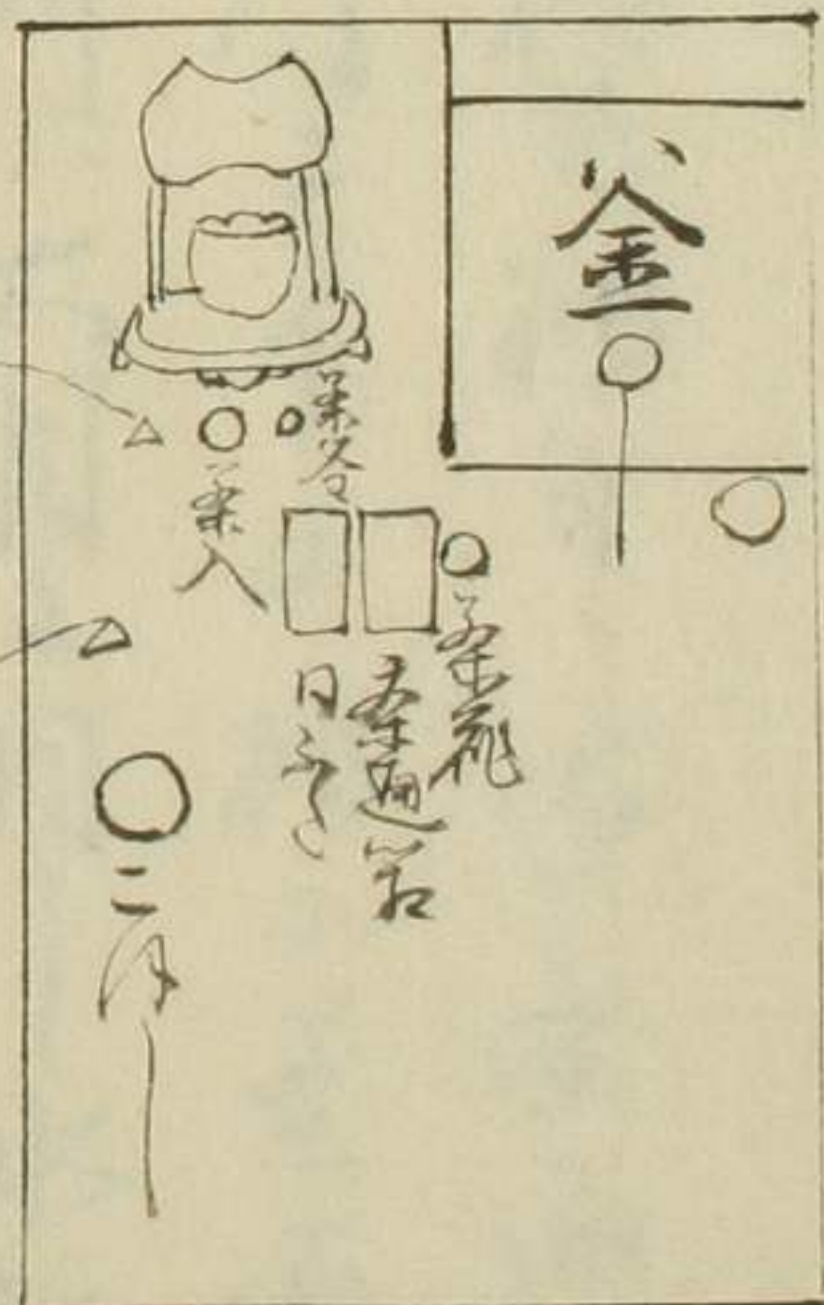
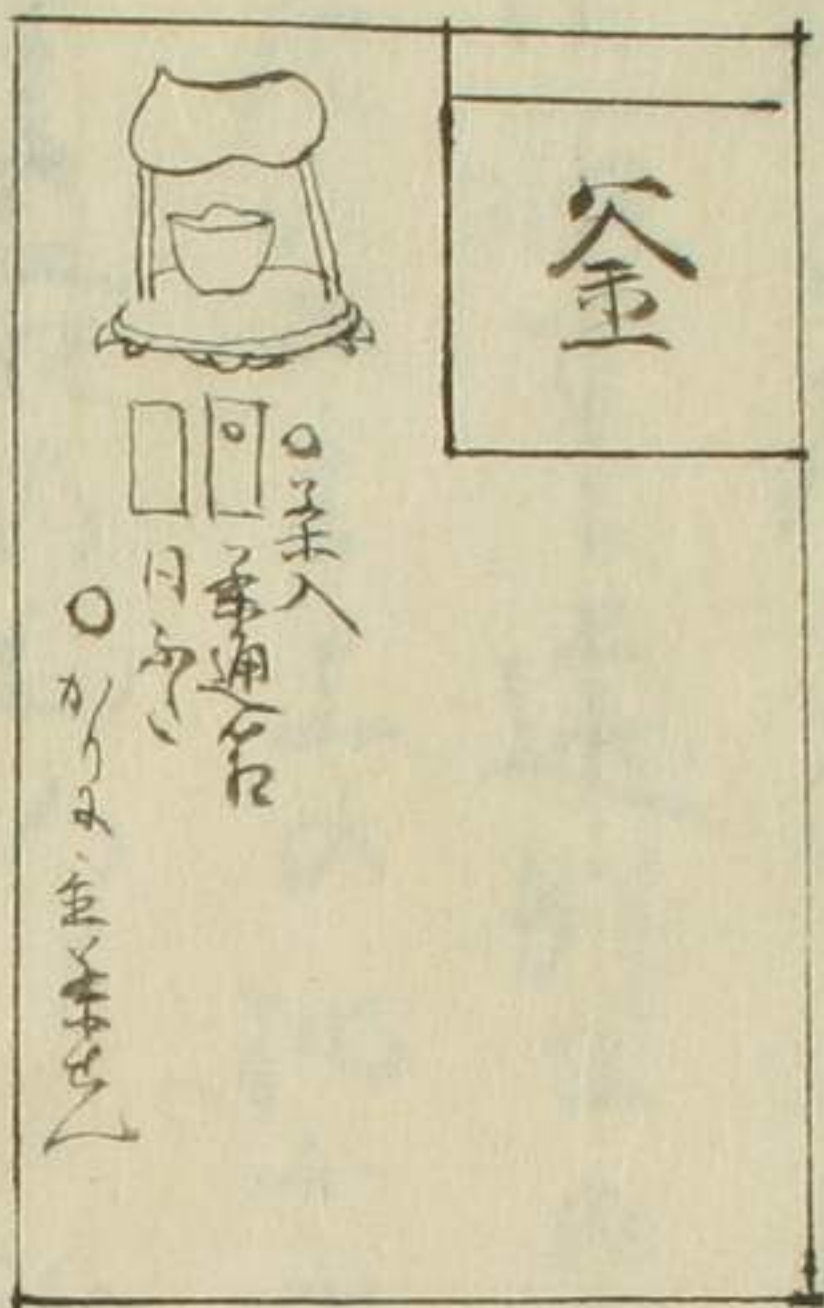
一 此すよ遠別公の袋柳也 時 桑通に
たの二まよの柳分 下下の柳ふ 茶碗
しん 袋のありし 折ハ大目も同し 水指柳
のちよありしり ぬめし 室も 福も 出し 金
のふも 大概大目も ありしん

一 是は遠別公の家角柳也 勝りしん 此ハ正申ふ
同書の何又ハ之柳向切の正申ふしん 分洞柳也
用ありしん

白切土爐茶通箱相りし圖

油の蒸入のし付め新

後の蒸籠のし付め新



柳の上の石一種下は水指蓋と二種也

白切土爐の可下りねたのやま
出所

一

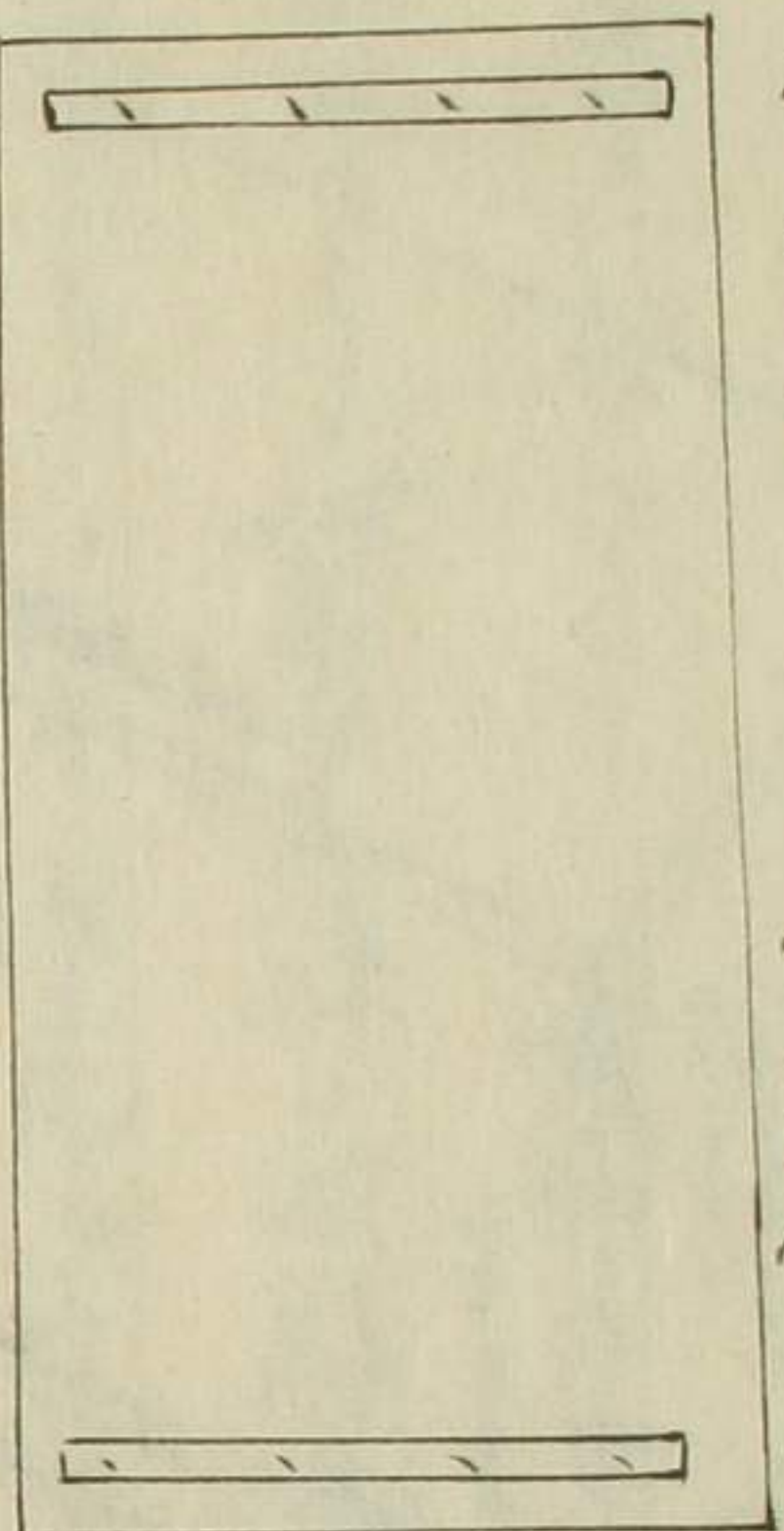
一は白切の釜柳座をぬく持の角の一角に一角あり
く座ありしはも柳の石を借る

一白切の角爐の風呂の茶通箱は同一考
合にしはも釜柳座をぬく柳座を
茶の爐の石の角柳座の座ありしは
も柳の石の角柳座の座ありしは
座ありしはも

圓蓋の裏

厚さ五寸

直径一尺二寸五分



三人の折中
径が細く

三人の折中を多くする外は法を門の方七厘
斤厚あり

蓋通の折中を湯の平次又は折中より
多く折中を多くする

折中を多くするは蓋の折中を多くする
蓋の折中を多くするは蓋の折中を多くする
折中を多くするは蓋の折中を多くする
折中を多くするは蓋の折中を多くする
折中を多くするは蓋の折中を多くする

三種の茶通第大目之

他とていふ名を治家此茶二種を撰く

まて茶の湯はこれと作て可なり

いふ常の茶なり

又園遊の茶と二種なりとて

うけはるる茶と園遊の茶と

茶の好むものなりと二種なりと

之を二種と名するなりと二種と名す

一と名するなりと二種と名す

園遊の茶と名す

又二種と名するなりと二種と名す

名す又二種と名するなりと二種と名す

一種と名するなりと二種と名す

鳴る大酒と名するなりと二種と名す

長蛇と名す

又茶通の茶と名す

の茶と名す

の茶と名す

一 祀神の階に神主の階に二種の祭神あり
祭神の階に

一 正祭神あり二神門あり三神門あり
之種あり一神門あり二神門あり三神門あり
又神門あり三神門あり四神門あり五神門あり
六神門あり七神門あり八神門あり九神門あり

他初祭神あり二祭神あり三祭神あり四祭神あり
祭神あり五祭神あり六祭神あり七祭神あり八祭神あり九祭神あり
祭神あり十祭神あり十一祭神あり十二祭神あり十三祭神あり十四祭神あり十五祭神あり

一 正祭神あり二祭神あり三祭神あり四祭神あり五祭神あり六祭神あり七祭神あり八祭神あり九祭神あり十祭神あり十一祭神あり十二祭神あり十三祭神あり十四祭神あり十五祭神あり
祭神あり十六祭神あり十七祭神あり十八祭神あり十九祭神あり二十祭神あり二十一祭神あり二十二祭神あり二十三祭神あり二十四祭神あり二十五祭神あり二十六祭神あり二十七祭神あり二十八祭神あり二十九祭神あり三十祭神あり三十一祭神あり三十二祭神あり三十三祭神あり三十四祭神あり三十五祭神あり三十六祭神あり三十七祭神あり三十八祭神あり三十九祭神あり四十祭神あり四十一祭神あり四十二祭神あり四十三祭神あり四十四祭神あり四十五祭神あり四十六祭神あり四十七祭神あり四十八祭神あり四十九祭神あり五十祭神あり五十一祭神あり五十二祭神あり五十三祭神あり五十四祭神あり五十五祭神あり五十六祭神あり五十七祭神あり五十八祭神あり五十九祭神あり六十祭神あり六十一祭神あり六十二祭神あり六十三祭神あり六十四祭神あり六十五祭神あり六十六祭神あり六十七祭神あり六十八祭神あり六十九祭神あり七十祭神あり七十一祭神あり七十二祭神あり七十三祭神あり七十四祭神あり七十五祭神あり七十六祭神あり七十七祭神あり七十八祭神あり七十九祭神あり八十祭神あり八十一祭神あり八十二祭神あり八十三祭神あり八十四祭神あり八十五祭神あり八十六祭神あり八十七祭神あり八十八祭神あり八十九祭神あり九十祭神あり九十一祭神あり九十二祭神あり九十三祭神あり九十四祭神あり九十五祭神あり九十六祭神あり九十七祭神あり九十八祭神あり九十九祭神あり百祭神あり

白の筆の中を

一 厄中を筆を取る(向) 一 常筆各を(し)し
一 時ハ筆各を乃(と)む(右)右を端と指し指の極端の
一 筆と(向)して(左)の(向)極端に(と)し(右)と
一 筆極端の上(左)向 一 右(と)筆(向)を(左)に(向)と
一 向(一)折(向)通して(左)と(右)と(向)不(向)極(向)と
一 向(一)筆(向)を(左)と(右)と(向)又(向)極(向)の(向)と(向)

一 右(と)筆(向)を(左)筆(向)の(向)右(向)の(向)向(向)

一 (向) (向) (向) 筆(向) (向) (向) 右(向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

(向) (向) (向)

一 筆(向) (向) (向) (向) (向) (向) (向) (向)

通る所の福と探り茶碗のふらと侍

坐玉居上へ茶の勿漏園遊の茶をて候

いふ波の若と名残しを流して格別儀

一少座茶と存仕と内相と改し各一柄取り付

茶巾金に置一云水指の置き方して茶碗の

色も候侍

一茶碗を右へ茶碗を才通と坐若し

一礼の礼と侍事 由事

世も茶の上へ茶を付禮所も浦也

一湯水も茶の湯一湯は後取り取り水十分取

入茶をすしと何の茶を道りと身は右角を

すのしと重

一右へ茶巾を茶碗の柄取を水と二湯一

柄取通て茶をとる事茶巾は茶碗は茶碗

さき茶碗ははしぬとてさ

一右へ茶碗を茶の湯へ先を右のけ右へ茶

碗を茶の湯へ初は茶を入れたる事

一釜水指の茶を茶の湯へ茶の湯へ茶の湯

かき水物はせきとありし

一 昔よりなるも二種は茶入袋の裏にありし

一 〇〇〇

但し大なるものは取らざりし

一 右より大箱をとりたるものありし

出 箱より取りし二枚は茶入袋とありし

茶入を茶箱の中に入れてありし

二枚は茶箱の中に入れてありし

の一方は茶箱の中に入れてありし

茶箱の中に入れてありし

二種は茶箱の中に入れてありし

茶箱

〇

茶箱

主

茶箱

もろくをとりて及方廻の市に在る手摘抄を湯
はくを以て至極又水がしうに和け強り
水釜を以てしむるくしうに 薬碗 湯を以て
但し右水の湯量既のりも亦もまじらふ薬碗の
口を以て湯身一の湯を薬用と爲さく六
薬碗もまじらぬ柄も香有くも湯の味も
しうに湯をくしう薬用は柄も香もと爲さく
亦取は湯をくしう

室津院の心元大目三

但室津院の薬碗の心元はくしうに
其形大小なくしう薬用は柄も香も
しうの薬用は柄も香も

一是の二三の心元はくしうに
又其の心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに
心元はくしうに

一 葉市に在る葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯
を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯
を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯
を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯
を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯

一 右に葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は
乃ち々々葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は
乃ち々々葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は
乃ち々々葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は
乃ち々々葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は

此葉市は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯

一 乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り

但水湯は乃ち々々葉碗方上り乃ち湯を葉市へ入すて葉市は

一 乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り
乃ち湯を葉市へ入すて葉市は乃ち々々葉碗方上り

右の向し右より葉巾を九たて湯の向し一紙通
乃中より葉巾をとりて正の葉巾を正の葉巾に
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾

一右の向し右より葉巾を九たて湯の向し一紙通
乃中より葉巾をとりて正の葉巾を正の葉巾に
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾

但し右の向し右より葉巾を九たて湯の向し一紙通
乃中より葉巾をとりて正の葉巾を正の葉巾に
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾
正の葉巾を正の葉巾に正の葉巾を正の葉巾に
くは入葉巾一葉巾の正の葉巾

右之茶内よりたを水と二の一は湯身也
常とる正茶常市は逆為也下二五

右之茶又たは心老ぬくさ出し一茶扱ぬき
茶碗よりけちると茶碗よりと正一湯
乃先子並茶器を用て茶碗のせると治

一後片茶碗の心を右より茶碗をいしと奥方
通ふ並内各一礼を礼と治るゆえ

一此より右より湯水はさしとて為ぬき
右より下は並たす初は茶碗を治茶

碗の上よりまの右より茶入二杯打ぬたを一と
えしと茶碗をさしと茶入たを茶と

一柄扱右よりたを湯く攻茶水より一とてた
湯一右より茶入はさしと茶一茶入よりた
扱ぬきと茶

一善治ぬきとて治る茶

一正片一とて一茶を茶扱ぬきとて茶を茶扱
巴水扱ぬきと治る茶

一善治ぬきとて治る茶一礼と

礼と云ふものもあらず

一善道は是れ何れも信じて居る者こそ是れ善一礼と

礼と云ふものもあらず

右に并居るものも一は又自立はるものも

左に居るものも一は又自立はるものも

炭下守侍の并客被極

但炭下守侍の同客は是れ何れも信じて居る者こそ是れ善

一は又自立はるものも一は又自立はるものも

又獨客の何れも信じて居る者こそ是れ善

炭下守侍の同客は是れ何れも信じて居る者こそ是れ善

又二客の並に居るものも

又二客の並に居るものも

又二客の並に居るものも

又二客の並に居るものも

ある事を知り

一本貝の豆汁と皮と紙の二色

紙二枚を皮の方へ置く
おまけの皮や皮の二枚を紙の方へ置く
おまけの皮や皮の二枚を紙の方へ置く

一巻の二枚の方を大短冊を二枚を二枚を
二枚を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を

二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を

二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を

二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を

二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を
二枚の方を二枚の方を二枚の方を二枚の方を

一 常一書

一 常一書は常一書の上を主としておこなふは常一書
たもつて常一書とあるは常一書と一環と
常一書の上を主としておこなふは常一書と
常一書と一環と

一 常一書の上を主としておこなふは常一書
一 常一書と一環と

一 常一書と一環と
一 常一書と一環と

一 常一書と一環と
一 常一書と一環と

一 常一書と一環と
一 常一書と一環と
一 常一書と一環と
一 常一書と一環と
一 常一書と一環と

世の常巻の上より只の色は保ちし縁

と巻とみるよし

一 常巻の— なるまは右に好角音と同
くふぬい事や

但巻の上より常巻の形は同じ巻

主なる事巻の上より初に成る

一 之頃かひたは— なる常巻は縁を

置き常巻は縁と巻とみるよし

但巻は縁より— なる常巻は縁

板巻の上より常巻は縁より— なる常

巻よりなるよし

但巻は— なる常巻は縁より

なる常巻は縁より

常巻は縁より— なる常巻は縁より

なる常巻は縁より

但巻の上より常巻は縁より

板巻は縁より— なる常巻は縁より

なる常巻は縁より— なる常巻は縁より

但し此の如くは、一冊の書物に、
著者の名（姓）を、
凡そ、
けり、
余の右の、

一、
一、
一、
一、
一、

一、
一、
一、
一、
一、
一、
一、
一、
一、

感あるは上妻の方と又妻の方と見えて
見えては同の者かと思はれぬか
りけり

一長巻右のうへへて又同巻と云ふ

一此は同巻と一巻あるは

一巻中へてくはるは同巻と云ふ

一此の巻は同巻と云ふ

一大巻の長巻右のうへへて

同巻の長巻右のうへへて

田の上へては、又巻は同巻の方
巻は同巻と云ふ、又巻は同巻の方
てし不き

巻は同巻の方と云ふ

巻は同巻の方

又同巻は同巻の方と云ふ

又同巻は同巻の方と云ふ

又同巻は同巻の方と云ふ

又同巻は同巻の方と云ふ

り

又國慶らむ所の福の心は皆合國慶の

政見人の心也

一 慶言右もしたる事皆其の心也

おと右を海を

但二より心は皆其の心也

多くも心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

其の心は皆其の心也

又若くはしるしにあらざるは
よき御用ひにあらざるは
但し御用ひにあらざるは
上より御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは

一長火若くは分りし主火御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは

但し御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは

又之より分りし主火御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは
御用ひにあらざるは

一 大と小の中と大と著るは右と
座を初め〜長と著るは初め
上と著るは初め〜大と著るは初め
右と著るは初め〜大と著るは初め
〜長と著るは初め

一 大と著るは初め〜大と著るは初め
中と著るは初め〜大と著るは初め
小と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め

た〜

一 大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め

大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め

大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め
大と著るは初め〜大と著るは初め

但たき物ぬえらうて二たきもたかくて一たき
強ち一焼きたくして一政えらうて又たき
業物ぬえらうて一たきもたかくて一たき

叔父物たき火着の巻のりて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

但書物巻のりて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

物もたかくて一たきもたかくて一たき

一巻のりて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

叔父物たき火着の巻のりて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

一巻のりて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき
一たきもたかくて一たきもたかくて一たき

いふにむくといふ方へ一書に洞窟の
とびつゝ名昔

又柔の湯を直よりゆへにゆかす一に持洞窟の
不入一洞窟はもき時右をへ使わうと云
のましてし

又巻のと度くうとていふまゝとて昔もえのま
方とていふとゆかすうとて山形とて各度とて
後くうとて入名もと

又下花の洞窟かうとて物もいきてあり

物も初筋也。うとて西にまゝとて。又中洞窟
洞窟もゆかすうとて昔もいふと洞窟のまゝ可也
一火若右も一洞窟は洞窟のほつとて方
更にも不不洞窟もも時いふ洞窟もまゝ
又井ももてとて昔もいふとて方とてゆかす
若く洞窟ももゆかすもも洞窟ももゆかす
もも物や後の洞窟ももゆかすももゆかす
とて洞窟ももゆかすもも洞窟ももゆかす
ゆかすももゆかすもも洞窟ももゆかす

海心都子改

一 此所記の事は古書に記してあるは
書殿の撰り又存あり

一 此所記の事は古書に記してあるは

一 此所記の事は古書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは

但書に記してあるは
此所記の事は古書に記してあるは

一 此所記の事は古書に記してあるは

一 此所記の事は古書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは

一 此所記の事は古書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは

但書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは
一 此所記の事は古書に記してあるは

各春成く爐内回すまの室通五入客よ
し後紙の付し書も取らるゝ二の巻(夏市を
織る)も一有申之

一申立前巻のな

一申立後巻のな

但月道巻入ふ巻又い巻巻入ふも

又巻入能儀一水か一入る巻

又曰遠州流よとい巻のな

花入の形取月又い巻の心巻りよも一巻の
如く巻入ふ巻のな出らる巻のな
又巻巻のな巻のな巻のな巻のな巻のな
の巻入のな巻のな巻のな巻のな巻のな
巻のな巻のな巻のな巻のな巻のな
一床の向ひも巻のな巻のな巻のな巻のな
巻のな巻のな巻のな巻のな巻のな
て巻のな巻のな巻のな巻のな巻のな
巻のな巻のな巻のな巻のな巻のな

形も又難巾を門に糸を巻く事にお花の奇
簾も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し
糸物も糸束しと能道し事なり若し若し

石室巻

但此の本貝の巻は又物と教ふる事也
床の上を巻く是打の筋の床ぎらの糸束の
比も又物とを録りて一極と云ふ
一と云ふは糸束の運用也一と云ふは
我ら此切を若くは糸束の運用也一と云ふは
つたき糸束の運用也一と云ふは糸束の運用也
今此巻を若くは糸束の運用也一と云ふは
多く此切小り巻の事也一と云ふは糸束の運用也

よきて月貝の巻と云限のよ入王たと也
午希のよく又物新のよち田のよ生をよ書
よ教のよ二通のよ可回のよ六せのよ一よのよ書
たてぬよ書よのよよのよ一よ興のよよのよ
又よのよよのよよのよのよのよのよ一よ入
司のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
二のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
一のよのよのよのよのよのよのよのよのよ

一 字書二のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
二のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
三のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
四のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
五のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
六のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
七のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
八のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
九のよのよのよのよのよのよのよのよのよ
一〇のよのよのよのよのよのよのよのよのよ

但此の氷を入らばよ〜〜又此の氷を入らばよ
そ〜水は次々きき方宜し

但此の氷を入らばよ〜〜又此の氷を入らばよ
ちよ〜とておのれは氷を十分よ次々きき
さ〜とてと花入のあらよの〜

但花と花入のあらよの〜
〜はか〜お昔〜のあらよの〜
〜とておのれは氷を十分よ次々きき
又此の氷を入らばよ〜〜又此の氷を入らばよ

〜とておのれは氷を十分よ次々きき
〜はか〜お昔〜のあらよの〜
〜とておのれは氷を十分よ次々きき
又此の氷を入らばよ〜〜又此の氷を入らばよ
〜とておのれは氷を十分よ次々きき
〜はか〜お昔〜のあらよの〜
〜とておのれは氷を十分よ次々きき
又此の氷を入らばよ〜〜又此の氷を入らばよ

一 水邊は水邊の邊に 雜巾を縫ふ

但此の所麻白とすべし

又水邊小形とすべし 卷を裁くを此の邊に

去らうとすべし 小形の水邊は

初め糸ぬきと知りの雜巾とすべし

卷を裁くを此の邊に

一 板又花を縫ふと身そ板を 個法ぬき

板板早とすべし 退えのたふさる

但此の所麻白とすべし 一礼やとす

一 二の字を 接接花とす

板の先直後とす 二の字の水邊

水とす 一 通る残

からく 接接花とす 一 通る残

然るに 欠りて 二の字の水邊

とす 一 通る残

一 礼やとす

但又字を 残とす 一 通る残

接接花の所とす 一 通る残

いなり

一 正巻花を多敷元巻くハ世巻と違ふ大反
よりを換世巻はよしく入り口はゆる
れたしなまなりしは流の目粒をを入
るハ世巻と外巻は別
先指しよりなり

世巻の正巻活巻の正巻毎敷の正巻
巻下りし本貝の寸法の寸法
但巻本指しをもちきる

いなり

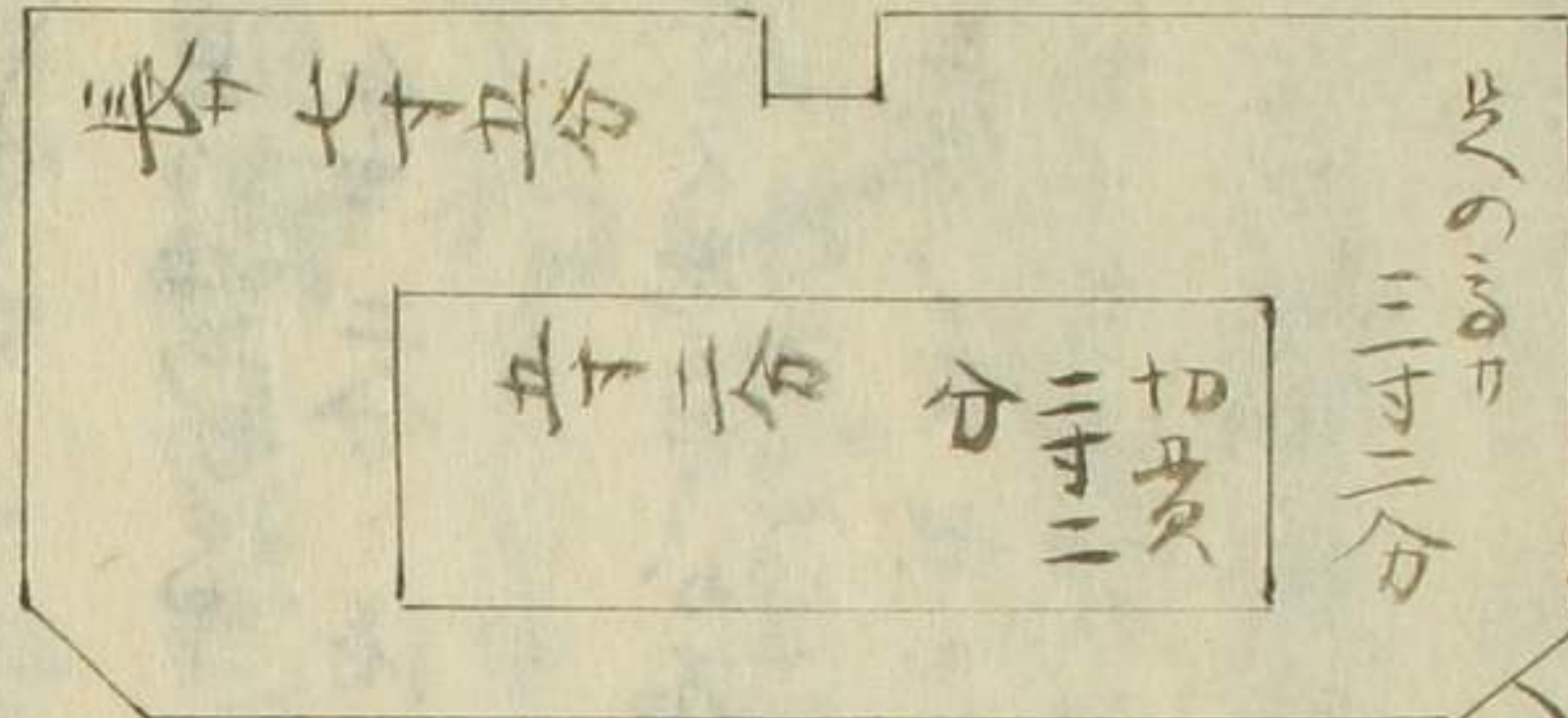
いなり

いなりを巻く
早うゆきのさし五分の法
白子二分三法
いなりを巻く
巻乃よの形は外法九寸
かき先のさし斗ねをもち
このため入るは括合なり

いなりを巻く

かむ二分寸ののぞき
てこそよきお巻巻
いなりを巻く
いなりを巻く
いなり

上



は五角のーや

是乃かこの二意の裏に伝り木通
 二申こ何は木厚七分是より
 出る眼のこー下より上七分
 是取方こ何り是乃方お是より
 ひきせせなり一糸むらー是え
 六寸五分糸七寸

